

NO. 4	議席番号	氏 名	質問事項・要旨及び答弁者
	8	鈴木 慎也	
<p>1. ドローン（無人航空機）の導入について</p> <p>ドローン元年と呼ばれた2015年からは、新たな飛行ルールや罰則が盛り込まれた航空法が改正・強化されています。また、ドローンは様々な分野における可能性に着目され、全国の各自治体においても幅広く活用されています。</p> <p>我が町でも観光スポットのSNS等を活用したPR動画や画像、不法投棄・密漁の監視、森林・災害の調査など幅広く活用ができると期待しております。</p> <p>特に災害面での活用では、災害発生時に現場へ急行し、初動調査で収集した情報を町の災害対策本部システムに反映させ、大雪や土砂災害により孤立した地域に衣料品や食料の支援物資を輸送するなど様々な活用方法があると考えます。</p> <p>また、ドローンを常時目視しなくても安全な物資輸送を可能とするドローンポートシステムの検証実験を国土交通省が行っており、実用化に向けた環境整備が進んでいます。</p> <p>今後もドローンは、様々な研究や実験を通じて、より性能が向上し、活用方法が広がっていく可能性が大いにあります。</p> <p>したがって、情報収集や事例調査を進め、各団体や民間事業者との連携も視野に入れながら、ドローンの幅広い活用・導入について検討すべきと考えます。</p> <p>我が町のドローン導入について、町長の見解を伺います。</p>			町 長

2. 観光振興の環境整備について

我が町では、「幸連5遺跡出土品」の歴史的遺産の発見や「咸臨丸調査」等、新幹線・高規格道路に続き、この好機を盛り上げていくために様々な環境を整える必要があると考え、次の3点について教育長の見解を伺います。

- ①幸連5遺跡の出土品は、調査が完了し、将来的に我が町に返還されるため貴重な出土品の受け入れ態勢の環境整備（例えば、資料館人員の見直し・セキュリティ対策・温度・湿度管理も含めたディスプレイ方法等）
- ②住民との結びつきを大切に考え、住民に知らせる努力や地元住民が盛り上がる方向へ進むために幸連遺跡・札苺遺跡・サラキ岬への看板設置などの検討や住民参加型のイベントの実施
- ③幸連5遺跡や咸臨丸を活かした新たな観光振興のための、専門窓口の設置、データ等の調査管理や行政・有識者・観光協会と連携した「特別チーム」の発足

教 育 長